

読売歌壇

小池 光選

セスナ機のビラを拾った少年期原っぱの友どうしているか

伊賀市 福沢 義男

【評】昔々の話だが、町々の上空にセスナ機が飛んできて、広告ビラを撒いたものだ。子供たちは遊びを止めて、そのビラを取りに走った。懐かしい仲間たち、いまどうしてる。

街を三日さまよい駆除をされし熊アスファルトで爪磨り減りおりしと 宇都宮市 大門とよ子

【評】全国に熊出没したいへん。都市の中心部にまで出る。駆除はやむを得ないが、こころが痛むことも事実だ。作者またその一人。

素直さがあなたの魅力と褒められるそれでいいのか還暦なのに 横浜市 梅川さりい

【評】六十歳にもなって、あなたの素直さがいいと褒められる。素直がいいのは子供時代だ。ちっとも褒め言葉でない。心境複雑。

二十歳にて故郷離れ八十五父母の死に目に会はず老いたり 国分寺市 加藤 武夫

開けないと中身分からぬ福袋それが人生なのかもしれないぬ 筑紫野市 二宮 正博

「あの女優太つたよねー」で盛りあがる自分のことはお互ひさておき 東京都 新井よね子

亡き妻を語り滲みし我が涙拭いくれたり老理髪師は 狭山市 奥蘭 道昭

見上ぐれば木々の間を雲は過ぎ枇杷の実ひとつ色づきはじむ 市川市 伊東香野子

石段を太腿上げて上りゆく今日一日の始まりとして 新庄市 田宮 良子

新緑に母の形見の留袖を母より長く生きて纏ひし 福山市 福島 善子

栗木 京子選

スチール棒、すず、スプレーに身を託し新聞配達始める午前三時に 青森県 林 宰子

【評】まだ暗い午前三時。上句はけっして大げさな装備ではない。熊から身を守るためだからである。スクーターあるいは自転車での配達だろうか。ご無事をお祈りします。

入院中の夫が危篤と知らされた田植なかばよ十三回忌 奈良県 根元 久子

【評】危篤の報を受けて病院に駆け付けた。田植の時期で、家族よりもむしろ夫の方が作業の進み具合を気にかけていたのかもしれない。「十三回忌」に歳月の余韻が漂う。

階段をこわごわ下りる背中へと迫力のある舌打ち聞こゆ 龍ヶ崎市 寺山 昭彦

【評】人で混み合う階段なのだろう。助け合いつつどこか、舌打ちが背後から聞こえて萎縮してしまう。「迫力のある舌打ち」が怖い。

からくりの時計のように動きだす台風去りし夕方の方街 さいたま市 栗田 幸生

夫の待つオーストリアは初夏になり引っ越し荷物整える朝 三豊市 藤田 美子

蛇を怖れ足下ばかり見ておれば先を横切る鼯見過ぐす 成田市 大関 富尾

二階にて開港記念日花火見る家族旅立ちひとりの夜空 横浜市 ひろいあいこ

連れ出したる自然セラピー木洩れ日の描くかたちを怖がる幼女 海老名市 玉川 伴雄

春の野に向日葵の花咲き急ぎたぶん誰かのインスタに載る 朝霞市 橋本 友子

つつじ咲く村の公園晴れ渡りワンカップ飲む楽しい孤独 山形市 柏屋 敏秋